

知っておきたい医療費の制度 高額療養費(70歳未満の方)

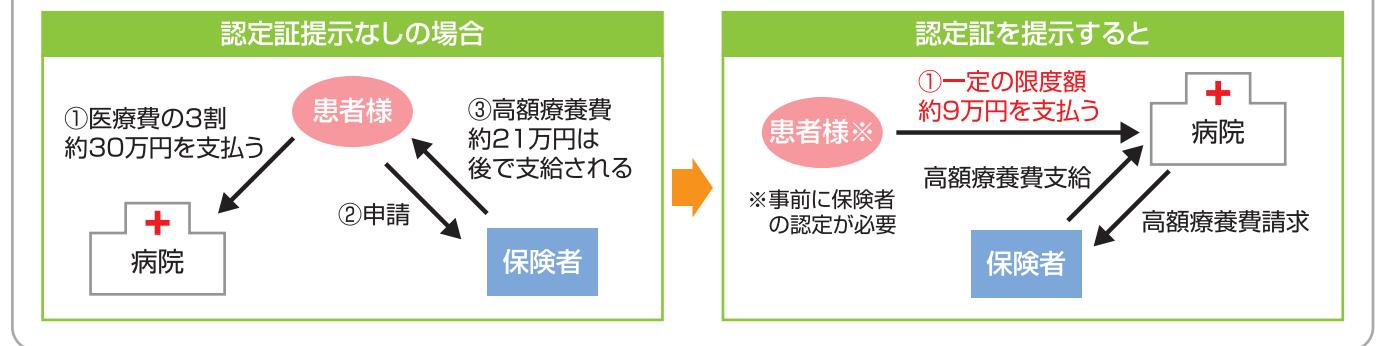
医療連携・患者支援センター ソーシャルワーカー 鈴木 恵子

70歳未満の方は、医療費が高額になった時の自己負担限度額が、右図のとおり所得に応じて3区分の限度額に分かれます。

この高額療養費制度を利用するには、外来の場合など、いったん患者様が病院窓口へ3割負担分の金額を支払わなければなりません。これが、患者様の経済的な心配の種となります。

しかし、入院の場合は、医療費の高額療養費が現物給付化されますので、窓口での支払を自己負担限度額にとどめることができます。これには、加入している健康保険窓口へ『限度額適用認定証』交付申請の手続を行えばよく、認定証を手に入れて医療機関へ提示すると費用負担が減ります。ちなみに70歳以上の方の入院医療費は既に現物給付化されていますので申請は必要ありませんが、中でも住民税非課税の方は申請により限度額が少なくなりますので健康保険の窓口(保険者)へお問い合わせになるとよいと思います。

(例)胃ガンの手術で10日間入院した時(医療費約100万円の場合)



外来受診のご案内

- 受付時間
初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:30
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日
日曜日、祝祭日、第3土曜／創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証
(原本)を必ずご持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

編集後記

じめじめしたうつとうしい日が続いておりますが、もうすぐ暑い夏、、、太陽に向かって咲くひまわりの季節になりますね。佐倉病院へ行く途中の庭先には、小ぶりな可愛らしいひまわりをみかけます。暑さよけといえば、体にやさしく電気代の節約にもなる、緑のカーテンが話題になっていますね。ゴーヤや朝顔等、じょうずに育てると室温が5℃くらい下がるらしい。ぜひためして暑い夏をのりきりたいと思っているところです。



SAKURAdayori

東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

市民公開講座、何のため?

教育担当副院長 寺田 一志



佐倉病院は市民公開講座を充実させます。色々の形で、何かしらの公開講座を毎月行う予定です。でも、何のために手間ひまかけて公開講座をやるのでしょう?市民教育のため。もちろんそうです。でも何でわざわざ?病院の宣伝?確かに佐倉病院の宣伝もあります。ならば、患者集めか?いいえ、それは違います。むしろ、その反対です。

病診連携はご存知でしょうか?風邪をひいた時や腹痛の時は、近くの診療所(かかりつけ医)で診察をうける。しかし、かかりつけ医が特別な検査や治療が必要だと判断したら、高度医療・先進医療を行う病院を紹介する。病状が安定し通院治療が可能になれば、再びかかりつけ医に戻る。このように、病院と診療所が役割や機能を分担しながら治療にあたる仕組みを病診連携といいます。日本中で病診連携を進めています。佐倉病院も近隣の医師会の先生方とともに、この病診連携を進めようとしています。しかし、一方で日本では根強い大病院志向があります。つい大病院にかかりてしまう。3時間待ちの3分診療の原因のひとつがここにもあります。一朝一夕には解決できない問題です。でも、病診連携には少なくとも市民の皆さんの医療に対する理解が必要なことは確

かです。市民公開講座の目的のひとつはここにあると思います。

もちろんテーマは色々です。高度医療・先進医療の話もします。でも単に宣伝ではありません。高度医療をちゃんと理解したほうが闇雲な大病院志向はやわらぐと思います。身近な症状をテーマにすることもあります。例えば、こういう頭痛は様子を見てよい、こういう頭痛はご近所の先生へ、こういう頭痛は救急車!そんな話ができれば正に病診連携ですね。

医療における自己選択・自己決定、これは現代の医療におけるキーワードです。市民の皆さんへの理解が少しでも深まる事を期待して市民公開講座をもっともっと充実させます。どうか気楽にお越しください。



市民公開講座のご案内

循環器センター主催の市民公開講座を開催しました。

2010年7月3日、『いびきと高血圧』および『急性心筋梗塞の診断と治療』をテーマに市民公開講座を開催しました。当日は梅雨の蒸し暑い天気の中、228名の方々にお出でいただき、盛況のうちに約2時間の市民公開講座が終了いたしました。



演

室を共にしているパートナーからの指摘で初めて気づくことが多いそうです。“いびき”は病気の一つであるという認識が重要であることや、簡単な検査で診断は可能であること、病態に合わせた具体的な治療法についても報告がありました。SAS治療に使用する各種機器の展示も行われ、来場者の方々に大変好評を得ました。

続いて、同センター・野池博文准教授から、『急性心筋梗塞の診断と治療』に関する説明がありました。心筋梗塞がなぜ早期に診断されなければならないのか、早期診断によりどのような効果があるのかについて、実際の症例を交え紹介いただきました。さらに、心筋梗塞をはじめとする重

大な心疾患を予防するための注意事項もお話しいただきました。検査方法の説明では、普段耳にすることのない難しい単語が並んでいましたが、ご来場くださった皆様方からは熱心な質問も寄せられ、会場は活気に満ち溢っていました。

高血圧や心筋梗塞をはじめとする循環器系疾患は、入院・外来ともに、とても患者数の多い疾患として知られています。循環器の病気が無いと思われる人には、循環器の病気にならないように、循環器の病気の有る人には、二度と同じ病気にならないようにすることを目標に、これからもよりよい診療を目指し努力してまいりたいと思います。



演



市民公開講座のお知らせ（予約不要・無料）

開催予定日	講演予定テーマ	担当
7月24日(土)	頭痛の診断と治療	神経内科・脳神経外科他
9月25日(土)	肝炎・肝硬変・肝がん	内科(消化器)・放射線科
10月23日(土)	スポーツ外傷	整形外科
11月20日(土)	認知症の診断と治療	神経内科他
12月25日(土)	心筋梗塞と大動脈ステント	循環器センター

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした市民公開講座を企画しております。多くの方にご参加いただき、病気の予防や早期発見、普段の生活に役立てていただければと考えております。いずれの講座も14時から当院東棟7階講堂で開催する予定です。詳細は院内掲示およびホームページなどでご案内いたします。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

当院における産婦人科領域の内視鏡治療について

産婦人科 高島 明子

日本産科婦人科内視鏡学会では2003年に技術認定期が導入されました。この制度は産婦人科領域における内視鏡下手術を安全かつ円滑に施行するものを認定し、内視鏡手術の発展と普及を目的としたものです。現在、千葉県内には9名の内視鏡認定医がいますが、当院には客員講師の大高先生と自分の2名が勤務しております。

産婦人科領域における内視鏡手術は腹腔鏡、子宮鏡に大別されます。良性腫瘍の中でも頻度の高い子宮筋腫や子宮内膜症、卵巣のう腫に対する腹腔鏡下腫瘍摘出術は、小さな傷で手術が可能であり、身体への負担も少なく、社会復帰も早い事、また術後癒着の頻度も少ない、といったメリットがあります。子宮鏡下経頸管的切除術（TCR）は子宮筋腫、子宮内膜ポリープ、子宮奇形などに対する低侵襲手術として認知されています。子宮内腔は狭い空間であり、ホルモン環境や病変により術野の確保には工夫が必要となります。良好な視野の確保には術前のホルモン調整が必須であり、低用量ピルなどの術前ホルモン治療を併用して手術を行います。特に今後妊娠を希望する患者さん（不妊症

を含め）の増加に伴い、手術数は増加傾向にあります。最近、内視鏡手術は県内遠方からも患者さんの紹介を受けるようになり、手術待機期間は平均で約4ヶ月となっています。当院ではリプロダクションセンターで不妊治療も行っており、術後の機能温存と妊娠率の向上を目指した内視鏡手術が可能になるよう心がけています。



一方で内視鏡手術は特有の合併症に留意する事も必要です。内視鏡手術には適応と限界がありますが、御希望の方は産婦人科又はリプロダクションセンター婦人科にいらして下さい。



当院の栄養相談について

栄養部 鈴木 和枝

食べることは人間の人生の一部です。そして嗜好や飲酒、食べられる量などの個人差が病気に係わってくることもあります。

当院では入院、外来を問わず栄養相談を実施しています。問題点を考えていくためには、献立内容だけでなく、生活スタイルや抱えているストレスまで伺うことがあります。病気の進行を防ぐ食事療法の大切さは分かっていても、栄養士に自分の生活をいきなり話すことはなかなか出来ません。そこで私達は色々な方法を考えました。その1つとして、あらかじめ患者さんに撮影してもらった食事内容と共に分析し、写真付きの資料を用いながら食品について分かりやすく説明ができるよう努めています。病気や治療内容、食事内容の経過をわかりやすくグラフで示すヘルスケアファイアルも使っています。

その人にあった食事計画を考えていく上で医師、看護師、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、臨床心理士など多職種で協議することもあります。それぞれの専門分野の知恵を

出し合い、患者さんが病気と向き合っていける手助けをしたいと考えています。

肥満気味の患者さんにはオーミュラー食を用いた減量治療をすすめています。一般的な食事療法に行き詰った患者さんには、特に有効な方法と考えています。実際、この方法で減量し、血糖も良くなり今も体重を維持している患者さんが、しばしば顔を見せて下さることが私達の励みになっています。患者さんとデータ等を持ち寄ってじっくり話し合い、納得して生活習慣を変えていけるよう適切なアドバイスをしていきたいと思っています。一時の食事に気をつけることは出来ても、それを継続していくことは大変なことです。食事相談についてはお気軽に医師、栄養士におたずねください。

